令和5年度主な事故

1．特別養護老人ホーム友愛園

	利用区分	事故発生日	事故発生場所	事故発生内容の概要		被害状況	家族等への連絡状況	入院期間	見舞金額	主な事故防止対策他
1	入所	R05.05.19	居室	転落	・居室訪室時、長座位でタンスにもたれているところを発見する。 ・右大腿部の痛みが見られるため、病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、右大腿骨頸部骨折の診断を受け、そのまま入院となる。	右大腿骨頚部骨折	・同日 後見人に電話にて報告。	R5.5.19 ～ R5.8.2	無	・離床時は、必ずナースコールを使用し、職員を呼んでいただくように繰返し説明する。 ・生活リズムを把握し、所在の把握に努め、離床時等の見守りの強化を図る。 ・機能訓練等を通じ、下肢筋力の維持向上を図る。
2	入所	R05.06.07	トイレ	転倒	・トイレ内で壁に寄りかかっているところを発見する。 ・右上腕部に痛みが見られるため、病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、右上腕骨折の診断を受け、通院にて治療することとなる。	右上腕骨折	・同日 家人（長男妻）に電話にて報告。	無	無	・排泄介助時は、必要物品等を事前に準備し、その場を離れないように徹底する。 ・トイレ誘導時には、必ず状態確認を実施し、必要に応じて二人介助を行う。
3	SS	R05.08.17	食堂	転倒	・食堂にて、床に座り込んでいるところを発見する。 ・後頭部を打撲した為、病院受診する。 ・検査の結果、異常は見られず経過観察の指示を受け、帰園する。	後頭部打撲	・同日 家人（次女）に電話にて報告。	無	無	・食事介助や見守りをしている場所から離れる場合は、必ず、他の職員に伝達し、常時の見守りができるように徹底する。 ・歩行時における転倒や転落の危険性の理解を図り、必要時応じて、ナースコールの使用や職員に声掛けするように繰返し説明する。
4	SS	R05.09.16	居室	転倒	・居室からコールがあり訪室したところ、ベッド横で仰臥位になっているところを発見する。 ・左下肢の痛みが見られるため、病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、左大腿骨転子部骨折の診断を受け、そのまま入院となる。	左大腿骨転子部骨折	・同日 家人（夫）に電話にて報告。	R5.9.16 ～ （SS退所）	無	・ベッドと車椅子間の移乗の際は、必ずナースコールを使用し、職員を呼んでいただくように繰返し説明する。 ・センサーマットを設置する。
5	入所	R05.10.05	食堂	転倒	・歩行器にて移動中にバランスを崩し、右後方に転倒する。 ・背部に痛みが見られるため、病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、骨に異常は見られなかったが、強い痛みが継続していた為、そのまま入院となる。	腰部打撲	・同日 家人（長女及び孫）に電話にて報告。	R5.10.5 ～ R5.10.12	無	・歩行能力、及び身体状況に合った歩行器であるか再確認を行い、必要に応じて、安定した歩行が図られるような機種を選定する。 ・機能訓練等を通じ、下肢筋力の維持向上を図る。 ・身体機能の状況に応じて車椅子の使用を検討する。

令和5年度主な事故

6	SS	R05.10.07	食堂	転倒	・食堂にて椅子に足を引っかけて右側臥位に転倒する。 ・右大腿部の痛みが見られるため、病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、右大腿骨骨折のため、そのまま入院となる。	右大腿骨骨折	・同日 家人（長男）に電話にて報告。	R5.10.7 ～ R5.10.31	無	・食堂内の動線上に障害物がないか等の確認を徹底し、スムーズに移動できる環境整備に努める。 ・立ち上がりや移動が頻回な場合は、見守りが行える環境の中で過ごしていただく。 ・精神不安定時には、傾聴に努め落ち着いて過ごしていただけるような関わりに努める。
7	入所	R05.11.15	居室	転倒	・居室から大きな音が聞こえた為、訪室したところ、左側臥位に転倒しているところを発見する。 ・左前腕部の痛み、及び頭頂打撲のため病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、左橈骨遠位端骨折のため通院にて治療することとなる。	左橈骨遠位端骨折	・同日 家人（長女）に電話にて報告。	無	無	・ベッドとポータブルトイレの動線上に障害物がないように環境整備を行う。 ・離床時は、ナースコールで職員を呼んでもらうように繰返し説明を行う。 ・短い距離でも歩行器を使用するように、繰返し説明を行う。
8	入所	R05.11.17	居室	転倒	・居室から助けを求める声が聞こえた為、訪室したところ、ベッド下に右側臥位で転倒しているところを発見する。 ・左前額部に裂傷と腫脹が見られるため、病院受診する。 ・診断の結果、骨折は見られず、創部の処置を受け、通院にて治療となる。	頭部裂傷	・同日 家人（長女）に電話にて報告。	無	無	・臥床後のベッドの高さを最低床にすると共に、衝撃緩和マットを設置する。 ・不穏時には、見守りができる環境の中で過ごしていただく。 ・臥床時は、見守り機器による確認を頻回に行い、行動の把握に努める。
9	入所	R05.11.27	食堂	転落	・食堂にて車椅子から左前方に転落しているところを発見する。 ・腰痛、及び頭部の腫脹が見られるため、病院受診する。 ・検査の結果、骨折は見られず、創部の処置を受け、通院にて治療となる。	腰部及び頭部打撲	・同日 家人（長女）に電話にて報告。	無	無	・安定した座位が図られるようにクッションや滑り止めシート等の使用を検討する。 ・体格や身体機能に合った車椅子を使用しているか再確認する。 ・不穏状態による多動時は、所在の把握に努め、見守りができる環境の中で過ごしていただく。
10	SS	R05.12.09	居室	転倒	・本人より足が痛むとの訴えがあり、確認したところ、左足首に軽度の腫脹と、下顎部に3cm程の内出血が見られるため、病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、左踵部骨折の診断のため、そのまま入院となる。	左踵部骨折	・同日 家人（長男及び長女夫）に電話にて報告。	R5.12.10 ～ （SS退所）	無	・居室内の環境整備を行い、動線上に障害物が無いよう留意する。 ・センサーマットの設置を検討する。

令和5年度主な事故

2. 養護老人ホーム高岡園

	利用区分	事故発生日	事故発生場所	事故発生内容の概要		被害状況	家族等への連絡状況	入院期間	見舞金額	主な事故防止対策他
1	入所	R05.06.02	食堂	転倒	・1階食堂内で仰臥位の状態で転倒しているところを発見する。 ・右大腿部に強度疼痛が見られるため、救急要請する。 ・レントゲン検査の結果、右大腿骨骨折の診断を受け、そのまま入院となる。	右大腿骨骨折	無 （身元引受人無）	R5.6.2 ～ R5.7.4	無	・センサーマットを設置すると共に、こまめな巡回、見守りを実施し行動把握に努める。 ・食堂内で、見守りをしている場から離れる場合は、必ず、他の職員と連携し、常時の見守りができるように徹底する。
2	入所	R05.07.14	食堂	誤薬	・夕食後薬の服用時、隣の利用者に配られた薬を服用する。 ・主治医に報告し、経過観察するように指示を受け、その後、特に問題なく経過する。	無	無	無	無	・手の届く範囲に薬を置かないように徹底する。 ・認知機能の低下による判断力、理解力等の低下が見られる利用者については、服薬時に直接手渡しをして、服薬するまで確認する。 ・薬袋に記載された名前と本人の確認を配薬前、服薬時、服薬後の3度行うように徹底する。
3	入所	R05.09.24	居室	転倒	・居室内のベッド横で口腔内、及び右上唇部を出血し、長座位でいるところを発見する。 ・頭部打撲の可能性があるため、病院受診をする。 ・CT検査の結果、右脳内出血の診断を受け、そのままま入院となる。 ・医師より、右脳内出血については、転倒によるものか、或いは、右脳内出血を因として転倒に至ったかは不明との説明を受ける。	右顔面打撲 脳内出血	・同日、家族（長男）に電話にて報告する。	R5.9.24 ～ R5.10.6	無	・歩行時は、杖を使用するように繰返し説明を行う。 ・レクリエーション等を通じ、生活の活性化を図り、心身機能の維持向上に努める。 ・センサーマットを設置し、行動把握に努める。

令和5年度主な事故

３．特別養護老人ホーム彩葉

	利用区分	事故発生日	事故発生場所	事故発生内容の概要		被害状況	家族等への連絡状況	入院期間	見舞金額	主な事故防止対策他
1	短期入所	R05.06.03	ユニット内リビング	転倒	・リビングにて、腹臥位の状態で転倒しているところを発見する。 ・顔面を打撲し、意識不明瞭のため、救急要請する。 ・レントゲン検査の結果、左頬骨骨折、左前額部挫創の診断を受け、そのまま入院となる	左頬骨骨折 左前額部挫創	・同日、家族（長女）、及び担当介護支援専門員に電話にて報告する。	R5.6.3～ （SS退所）	無	・多動や不穏状態が強く、精神的に不安定である時は、こまめな巡回、見守りを実施し行動把握に努める。 ・職員がユニットから離れる場合は、必ず、職員間で声を掛け合い、ユニット内に職員が不在とならないように徹底する。 ・精神面での不安定さが顕著に見られる場合は、担当ケアマネージャーと連携を図り、医療機関への受診を勧める等の対策を講じる。
2	入所	R05.06.06	居室	転倒	・居室内で仰臥位の状態で転倒しているところを発見する。 ・臀部から左大腿部にかけて、強い痛みが見られることから、救急要請する。 ・レントゲン検査の結果、左大腿骨頸部骨折の診断を受け、そのまま入院となる。	左大腿骨頸部骨折	・同日、家族（長女）に電話にて報告する。	R5.6.6 ～ R5.6.19	無	・ベッドの高さや家具の配置等、居室内で安全に生活することができるように、ADLの状況に応じた環境整備に努める。 ・歩行不安定のため転倒の危険性があることを伝え、ナースコールの使用や職員に声掛けしていただくように繰返し説明する。 ・昼夜を通して、居室にて過ごす時間が多いため、余暇活動への参加、及び機能訓練等を通じて、日中の活動量の増加、及び下肢筋力低下の防止を図る。
3	入所	R05.06.23	居室	転倒	・居室内で左側臥位の状態で転倒しているところを発見する。 ・背部に痛みが見られたが、軽度のため、経過観察をしていたが、翌日以降も痛みが継続していたことから、病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、胸椎椎体骨折の診断を受け、そのまま入院となる。	胸椎椎体骨折	・同日、家族（長女）に電話にて報告する。	R5.6.27 ～ R5.7.20	無	・居室内における転倒・転落の危険性を伝え、必要に応じて、ナースコールや職員に声掛けするよう繰返し説明する。 ・精神状態が不安定な場合など、転倒のリスクが高くなる傾向があるため、不穏状態が見られるときは、こまめに様子観察や本氏の訴えの傾聴に努め、精神状態の安定を図る。
4	入所	R05.11.30	居室	転倒	・臥床介助時に、左第3指から手背にかけて、腫脹、及び軽度疼痛が見られることから、病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、左第3指中節骨骨折の診断を受け、通院にて治療となる。	左第3指中節骨骨折	・同日、家族（長男）に電話にて報告する。	無	無	・精神的に不安定な時に、テーブル等を繰返し叩く行動が見られることから、アームウォーマー等の着用を検討し、上肢の保護に努める。 ・健康面での安定や都度の関わりにより、精神的安定を図る。

令和5年度主な事故

5	入所	R05.12.03	居室	転倒	・居室内で仰臥位の状態で転倒しているところを発見する。 ・左大腿部周辺に疼痛が継続していることから、病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、左大腿骨転子部骨折の診断を受け、そのまま入院となる。	左大腿骨転子部骨折	・同日、家族（長男）に電話にて報告する。	R5.12.4 ～ R5.12.27	無	・ベッドの高さや家具の配置等、居室内で安全に生活することができるように、ADLの状況に応じた環境整備に努める。 ・居室内における転倒・転落の危険性を伝え、必要時応じて、ナースコールや職員に声掛けするよう繰返し説明する。 ・センサーマットの設置を検討する。
6	短期入所	R05.12.15	ユニット内リビング	転倒	・椅子から立ち上がる際に、椅子の脚に躓き転倒する。右肩周辺の痛みが見られたが、他に異常がなかったため経過観察を行っていたが、翌日に右大腿部の痛みが出現したため、病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、右大腿骨頸部骨折の診断を受け、そのまま入院となる。	右大腿骨頸部骨折	・同日、家族（長女）、及び担当介護支援専門員に電話にて報告する。	R5.12.16～ （SS退所）	無	・歩行が不安定であり、転倒リスクが高くなっていることから、担当ケアマネージャーと連携し、歩行器、及び4点杖等の福祉用具の使用を検討する。 ・歩行時における転倒の危険性を伝え、必要時応じて、ナースコールや職員に声掛けするよう繰返し説明する。 ・移動時における見守りを強化する。
7	入所	R05.12.31	居室	転倒	・居室内で左側臥位の状態で転倒しているところを発見する。 ・顔面を打撲し、口唇部に出血が見られるため、病院受診する。 ・診断の結果、創部の処置を受け、通院にて治療となる。	口唇部裂傷	・同日、家族（長男）に電話にて報告する。	無	無	・日中、居室にて過ごされることが多く、精神面が不安定である時は、多動となる傾向が見られることから、こまめな巡回・見守りを実施し行動把握に努める。 ・職員がユニットから離れる場合は、必ず、職員間で声を掛け合い、ユニットに職員が不在とならないように徹底する。 ・姿勢の傾きや下肢筋力の低下を防止するために、生活リハビリや余暇活動を通して下肢筋力の維持、向上に努める。
8	入所	R06.01.10	居室	転倒	・左下肢の痛みの訴えがあり、配置医師の指示により鎮痛剤を服用するも、痛みの軽減が見られないため、病院受診する。 ・レントゲン検査の結果、左膝蓋骨骨折の診断を受け、通院にて治療となる。	左膝蓋骨骨折	・同日、家族（長男）に電話にて報告する。	無	無	・移乗介助時、及び体位変換時に受傷した可能性があり、介助の手順や注意するポイントを纏め、情報の共有を行うことで介護方法を統一する。 ・両下肢が尖足となっているため、車椅子操作時には必ず、フットレストに足を乗せるよう徹底し、操作時の足の巻き込みに注意する。

令和5年度主な事故

9	入所	R06.02.17	居室	転落	・居室内にて、ベッド横に長座位の状態でいるところを発見する。 ・前頭部を打撲し、出血が見られることから、救急要請する。 ・診断の結果、創部の処置を受け、通院にて治療となる。	前頭部裂傷	・同日、家族（長女）に電話にて報告する。	無	無	・ベッドへ臥床した直後や、不穏状態が見られる際は、転落のリスクが高くなっているため、こまめな巡回を実施し行動把握に努める。 ・ベッドボード、及び車椅子のアームレスト部分での打撲等が考えらるため、衝撃緩和カバーを設置し、リスク軽減に向けた環境整備を図る。 ・センサーマットの設置を検討する。
10	短期入所	R06.02.20	ユニット内リビング	転倒	・居室内で仰臥位の状態で転倒しているところを発見する。 ・後頭部を打撲、及び裂傷し、出血が見られるため、救急要請する。 ・診断の結果、左急性硬膜下血腫、後頭部裂傷の診断を受け、そのまま入院となる。	左急性硬膜下血腫 後頭部裂傷	・同日、家族（次女）、及び担当介護支援専門員に電話にて報告する。	R6.2.20～ （SS退所）	無	・起床直後は、特に歩行不安定になる傾向があり、早朝を中心に、こまめな巡回を実施し、行動把握に努める。 ・一本杖を使用しているが、忘れることが多く、歩行時は、杖を使用するように繰返し説明する。 ・歩行状態に応じ、シルバーカーや、車椅子の使用を検討する。

令和5年度　苦情等発生処理状況

１．特別養護老人ホーム彩葉

	受付日	利用区分	分類	申立内容の概要	処理状況
1	R05.05.18	入所	苦情	以下の事項について、申し出があった。 ①面会時に、他者のズボンを履いていた。どの様な管理をしているのか。 ②散髪と歯科受診を希望していたが実施されていない。	・申立人に対して、経緯、及び改善策の説明を行うと共に、下記2点を約し、理解を得る。 ①衣類に名前を記入する部分を統一し、確認方法を明確にすると共に、定期的に収納タンスの整理整頓を行い衣類の取り間違いを防止する。 ②依頼事項については、職員間で情報共有を徹底し、実施後は必ず、その結果を依頼者に報告する。